

## 申6号

## Part①

## 2022年度冬期対策検証に基づく申し入れ

7月31日、申6号について団体交渉を行いました。今冬は昨年よりも雪が少なかったものの、雪抱き込み時の乗務員による除雪などについて組合員から多くの声が上がリ、会社と議論してきています。安全が大前提との認識は一致してきていますが、今交渉で確認したことを組合員と一致させ、今後の検証に活かしていきたいでしょう。

来年も雪は必ず降ります！各地での課題解決のために職場議論を深めていきましょう。

## 共通

「すぐ除雪」の指示はない！  
安全な状況を確認してから！

1. 雪抱き込みによる停車時の除雪について、乗務員による状況確認をする前に輸送指令から除雪依頼がされた例もあるため、取り扱いフローについて指導を行うこと。  
回答：雪害対策マニュアルに則り取り扱うこととなる。

【組合】雪害マニュアルが徹底されていないとの声もある。安全に作業できることが第一であり、状況を確認してからというルールを再度周知して欲しい。安全かどうかに基づいて指示をすべきだ。

【会社】指令も初めての取り扱いだった。引き続き冬期前に指導していく。

2. 経験3年目までの運転士に対して、停止ブレーキの際にホーム始端から25km/h以下で進入する旨の指導がされているが、目的と効果を明らかにすること。  
回答：安全・安定輸送の確保を目的とし実施したところである。

何のための対策なのかが重要だ！

・経緯は2021年に経験3年未満の運転士の停止位置誤りが6件発生。これまで具体的な指導がなかったため、いつでも止まれる速度25km/h以下で進入するよう指導連絡会で具体的に指導している。  
・件数を減らしたい。急ぎの対策であり来冬に向けてブラッシュアップが必要。弘前ではより具体的に「25km/h以下だけではなく、電ブレを切らさないように」と指導されていた。

【組合】25km/hということだけが先行している。現場に即した指導をした方が乗務員も腹落ちする。

【会社】25km/hが良いということではない。冬期ブレーキについて考えてもらうための指導としていくためブラッシュアップしていく。

## 県南地区

1. 大釜駅上り1番線ホームおよび横手駅2・3番線ホームの除雪が行われていないことが多かったため対策を行うこと。  
回答：今後も部外能力等を活用し実施していくこととする。

・雪を捨てる場所がないため横手駅のホーム端は苦慮している。お客さまの乗降の無い場所に置いている現状。  
・駅に常駐している作業員はいない。今のところタイムリーに手を打つことができない。

3. 田沢湖駅の車掌用停止位置目標の除雪依頼があった際、駅で対応できない場合はCSPで対応すること。  
回答：対応が困難な場合は、管理箇所へ連絡することとなる。

・田沢湖駅からCSPへの指示は偽装請負にあたるため絶対にやらない。

・田沢湖駅で対応が難しい場合は、管理箇所（大曲駅）へ連絡して対応することとなる。CSPは各駅を回っているため、タイムリーに田沢湖駅にいるとは考えづらい。管理箇所と打ち合わせて対応することとなる。

3. 車両搭載のスクレイパーが壊れているものについては交換すること。  
回答：必要により対応していく考えである。

・声をあげてもらえれば取り替える。  
・長さは感電防止や挟まれ防止を考慮している。  
・入区して確認した際に壊れていたら取り替える。使えないものを搭載していてもしょうがない。

2. 後三年駅ではホームの雪を線路上に落としていることがあり、列車が雪を押し込んでしまうため指導すること。  
回答：今後も部外能力等を活用し必要な教育は行っていく。

・線路上に捨てないように冬期に入る前に教育している。再度周知していく。  
・教育は横手駅で行っている。